

日本で出会った自然

横浜Y M C A学院専門学校 崔 亨仙（韓国）

日本に留学して初めて迎えた冬のある日だった。風邪気味で、日本で初めて病院を訪れた。緊張した気持ちで病院に入ると、かなり多くの人が待合室で待っていた。患者が多く忙しそうなお病院内で、まだ日本語が上手ではない私が片言の日本語で受付をするのは失礼ではないかと思ひ、ますます緊張は増した。しかし、受付の人は下手な私の日本語をパズルを合わせるように落ち着いて聞き、何から何まで外国人が理解しやすいようにやさしく説明してくれた。「さすが親切さの代名詞、日本だ。」私はそう思いながら順番を待っていた。

受付順に看護師と呼ばれて診察室に入るのは韓国と同じだった。しかし、異なる点があった。韓国ではフルネームを呼ぶのに、日本では名字だけを呼んでいた。さらに驚いたことに、名字だけ呼んでも重なる人が一人もいなかった。もし韓国で「キムさん」と呼んだ場合、診察室に何人入るだろうか。おそらく待っている人の半分が入ることもあるだろう。キムさんに限らず、韓国では、名字だけ呼ぶと絶対に一人ではないのだ。この経験は日本人の名前に興味を持つきっかけになった。

留学して間もない頃、日本人の先生の名前を覚えるのにも苦労した。慣れていない発音、複雑で似たように見える漢字。漢字が苦手だった私にとって、漢字で名前を覚えるのは本当に難しく、「月曜日」の先生、「火曜日」の先生と覚えていた。しかしそれでは失礼だと思ひ、先生の名札を見て漢字の意味を調べてみた。その時、日本人の名前は自然の意味を持っていることに気づいた。

私の国では、韓、高、金、宋などかつて大陸を支配した国の名前がそのまま名字になっている。アメリカではTailorやCarpenterなどの職業、中東やヨーロッパでは宗教上の聖人の名前が名字になっている。しかし、日本人の名前は自然からできている。なぜか美しく、感銘を受けた。

私にとって、自然は特別な意味を持っている。私は韓国で22年間パンソリを習ってきた。パンソリとはドレミでは表現できない声楽で、伴奏や楽譜もなく、ひたすら人の声ですべてを表現する韓国の伝統音楽である。パンソリには風、雨、雷、谷川、そして村の様々な音など自然を表す音があり、自然の音も声で表現するので山に入って自然の音をトレーニングする学習プロセスがある。そのためか、私には日本人の名前を漢字で見ると自然がイメージできるようになり、その名前の中で自然の音が聞こえ始めた。ある日、「金曜日の先生」と呼んできた入江先生の授業中、名前を覚えるために目を閉じて「入江」のイメージを思い浮かべた。

「さらさらと流れる川の音が聞こえ、その川が海に達する。その浜の周辺に美しい城があり、城の周りには人工的に作られた川が流れている。」

しばらく自然の世界に行ってきた後で我に返ると、

「皆さん、早く宿題を提出しなさい。」

と先生の声が聞こえ、本人とのイメージが違ってつい笑ってしまった。それからは、漢字の勉強にも役に立つように、その人のイメージに合う漢字の名前も考え始めた。自分なりに楽しんで日本人の名前を付けているうちに、日本人が主人公となった「日本の山と風の物語」という童話ができた。

「向こうに山が連なっています。その前に美しい田んぼが広がっています。山田さん、こんにちは。田んぼの前には川があり、橋がかかっています。そこにいるのは川橋さんですね。橋を渡ると小さな林があり、小林さんが住んでいます。林の中には竹藪があり、藤の木があります。竹下さんと佐

藤さんですね。村の入り口には大きな桜が井戸の屋根となり、旅人の友になっています。村には吉村さん、木村さん、村田さんが住んでいて、村田さんの家からも風に揺れるカカシの姿が見えています。」

このように日本人の名前だけで美しい自然が描かれる童話作品となり得ることを、おそらく日本人にはわからないだろう。しかし、外国人の立場から見ると、豊かでありながらも時には残酷さを見せる自然を抵抗なく受け入れて名前として使っている日本人をうらやましく思う。

童話のタイトルである「山」は自然を意味し、「風」は人を意味する。日本人の名前をきっかけに、日本では自然と人が別々ではなく、人が自然そのものであると気づいた。日本で様々な名前に囲まれていると、まるで自然の中にいるように感じる。そして、その「自然」が今日も私に話しかけ、私は自然と会話している。今、私は日本でしかできない特別な体験をしている。

